・海外感染症流行情報　2026 年 10 月　　東京医科大学病院　渡航者医療センター

（1）全世界：　インフルエンザ、COVID-19 の流行状況

日本では 10 月にインフルエンザの流行が注意報レベルになり、検出されるウイルスは A（H1N1）型が多くを占めています（厚生労働省　26-10-23）。東アジアや東南アジアでも A（H1N1）型の流行がみられ、患者数が増加傾向にあります（WHO 西太平洋　26-10-22）。

COVID-19 については、ヨーロッパで患者数が　10　月も増加しており、XFG　型が主流です（ヨーロッパ CDC 26-10-16）。一方、日本では BA.3.2 型が主流で、夏の流行はほぼ収束しました（厚生労働省　26-10-23）。

（2）アジア：アジアでのデング熱流行状況

アジアでは　10　月も、マレーシア、ベトナム、タイでデング熱の患者数が多くなっています（WHO　西太平洋　26-10-15、WHO 南東アジア　26-10-21）。また、バングラデッシュで 10 月に患者数が急増し、今年の累計数は　11　万人になりました。アジアの熱帯、亜熱帯では　11　月も媒介蚊の発生が続くため、デング熱への予防対策が必要です。

（3）アフリカ：アフリカでのエボラ出血熱の流行

コンゴ民主共和国・北東部でのエボラ出血熱の流行は、10　月に入っても高いレベルの感染拡大が続いています。累積患者数は 10 月下旬までに 9,704 人（死亡者 4,687 人）で、この 1 ヶ月で約 2,000 人増加しました（WHO 26-10-23）。また、周辺国のケニアで 9 人、ナイジェリアで 1 人の患者が確認されました。ケニアではコンゴの流行地域からの入国者による拡大ですが、ナイジェリアの事例については感

染ルートが判明していません（ボストン大学 BEACON 26-10-23）。

（4）アフリカ：西アフリカでのジフテリア流行

西アフリカ各国でジフテリアの流行が発生しています。ナイジェリアでは今年になり 1 万 2000 人の患者（596 人死亡）が発生し、セネガルでは首都ダカールなどで 248 人の患者（11 人死亡）が確認されました（ヨーロッパ CDC 26-10-16）。モロッコでも小規模な流行が発生しています。西アフリカに滞在する際には、三種混合ワクチン（ジフテリアが含まれる）の接種を受けておくことが推奨されます。

（5）ヨーロッパ：フランス、イタリアで蚊媒介感染症の患者増加

今年の夏はヨーロッパ各地で蚊媒介感染症の患者数が増加しています。フランスではチクングニア熱が 163 人、西ナイル熱が 178 人、イタリアではデング熱が 60 人、西ナイル熱が 748 人報告されました（ヨーロッパ CDC 26-10-16, 英国 NaTHNaC 26-10-15,16）。フランスでは地中海沿岸地方、イタリアでは北部から中部で患者発生が多くなっています。なお、フランスで 10 月にシャモンダウイルスの初めての患者が発生しました（ヨーロッパ CDC 26-10-22）。このウイルスはウシなどが保有しており、ヌカカによって媒介されます。今回の患者は基礎疾患があり、ヒトへの感染は稀と考えられます。

（6）米州：米国などで麻疹患者が増加

今年、米国では麻疹患者数が 10 月下旬までに 4,588 人にのぼっており、昨年 1 年間の患者数の2倍を超えました（米国 CDC 26-10-23）。死亡者も 3 人確認されています。患者の 3 割以上は東部ペンシルバニア州での発生でした。また、アメリカ大陸全体でも今年 10 月上旬までに 5 万 6000 人の麻疹患者が発生し、昨年同期の 5 倍近い数になりました。とくにグアテマラやメキシコでの発生が多くなってい

ます（汎米保健機構 PAHO 26-10-22）。